

- Cross・x・かける 企画 -

日常茶飯のリデザイン : イギリスのフィッシュ・アンド・チップスから考える

内容: 19世紀後半のイギリスで誕生し、安価で手軽な食べものとして庶民のあいだに急速に広まったフィッシュ・アンド・チップス。その普及は、店で購入した料理を家に持ち帰って食べるというひとつの食習慣をイギリス社会に根づかせることにもつながりました。フィッシュ・アンド・チップスの歴史と現在からは、食の工業化、都市の住宅事情、料理という家事労働のあり方など、さまざまな社会の変化がみえてきます。「中食」市場がますます拡大していると言われるポストコロナ時代、フィッシュ・アンド・チップスを中心としたイギリスのテイクアウェイ文化から、食をめぐる日常をデザインし直すためのヒントを探ってみたいと思います。



神戸大学国際文化学研究所協力研究員 翻訳者

栢木 清吾 氏

金沢美術工芸大学美術工芸学部准教授

稲垣 健志 氏



講師：栢木 清吾 氏 (かやのき せいご)

略歴：1979年大阪生まれ。神戸大学総合人間科学研究科博士後期課程修了。専門は移民研究、カルチュラル・スタディーズ。最近の論考として「差別感情にふれる」『ふれる社会学』（北樹出版、2019年）、「おもてなされている日本」『現代用語の基礎知識』（自由国民社、2019年）、「グローバル化・移民・都市空間」『出来事から学ぶカルチュラル・スタディーズ』（ナカニシヤ出版、2017年）などがある。訳書にパニコス・パナイー著『フィッシュ・アンド・チップスの歴史』（創元社、2020年）、ニケシュ・シクラ編『よい移民—現代イギリスを生きる21人の物語』（創元社、2019年）など。

講師：稲垣 健志 氏 (いながき けんじ)

略歴：1978年愛知生まれ。金沢大学文学部卒業、ウオリック大学（イギリス）大学院修了、大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程単位取得退学、博士（言語文化学）。専門はイギリス現代史、イギリス文化研究。主な論文に「A.シヴァナンダン『新時代のたわごと』にみる新自由主義時代の社会運動」『金沢美術工芸大学紀要』第60号（2016年）、「英語圏の中心でパトワを叫ぶ—リントン・クウェシ・ジョンソンのダブ・ポエトリーをめぐる—」『金沢美術工芸大学紀要』第61号（2017年）、共著に『教養のための現代史入門』（ミネルヴァ書房、2015年）がある。

定員 30名 参加費：無料

場所 オンライン開催です。お申し込み受付の際に配信 URL 情報をお送り致します。

申込

お名前・連絡先メールアドレスをご記入の上、下記メール宛にお申込みください。

kanazawa-maker@jaist.ac.jp 北陸先端科学技術大学院大学 永井研究室 宛